

水道スマートメーターの実証実験について

1. 概要

全国の水道事業は、人口減少などによる水需要の低下、施設の老朽化、環境問題への取り組みなど様々な課題がある中、安全かつ安定的な水道事業を持続していくために、ICT技術を活用した事業運営の効率化や最適化が必要となっています。

そのような中、通信機能により水量データを自動取得できる水道スマートメーターを活用した、配水管の漏水の早期検知や災害時の断水範囲の早期特定などの迅速な対応、スマホアプリによる自宅の漏水検知や高齢者見守りなどの新たな住民サービス提供の可能性が期待されています。

2. 目的

本町では毎月1回検針を行っていますが、メーターボックス内の管理状況によって検針に時間を要したり、漏水の発見が遅れたりしています。また、冬期には積雪による検針時間の超過や、検針ができない場合には認定請求が発生しています。

こうした中、株式会社ウォーターデバイス（住所：豊岡市）より水道スマートメーターの無線通信性能・収集データ活用実証実験の提案をいただきました。

実証実験では、検針業務の効率が悪い集落において、設置環境による無線通信速度の確認、検針業務の効率化の検証、さらには、使用水量の見える化、漏水の早期検知、高齢者見守りなどICT技術を用いた新たな住民サービスの提供についての検証を目的としています。

3. 実証実験の全体像

令和4年度中に対象地域を選定し各戸に水道スマートメーターを設置、令和6年度までの3ヵ年電波到達実験、収集データ活用の検討を行う予定です。

